

一般財団法人水原フィラテリー財団

2024年度事業報告書

2024(令和6)年4月1日～2025(令和7)年3月31日

〔概要〕2024年度は、国際博物館会議(ICOM)及び公益財団法人日本博物館協会が提唱する「国際博物館の日」に切手の博物館からテレビの生中継で全国放送され、土曜日という曜日と相まって、終日多くの来館者で賑わいました。年間入館者数や各種ワークショップの参加者数も前年度に比べ増加しましたが、まだ“コロナ前”の数値には届きません。一方、SNS(インスタグラム、X(旧ツイッター)等)への反応は大きく伸展し、インスタグラムのフォロワーは対前年比310%、Xのフォロワーは同260%となりました。引き続き郵便切手文化の普及・振興、支援・助成に注力していきます。

I. 継続事業

1. 資料の収集、保管、公開

郵便切手類及び郵便切手関連資料を収集、保管するとともに、展覧施設「切手の博物館」における展覧会を通して公開しました。

(1) 資料の収集・保存管理

- ①日本及び世界各国の新切手を常時購入し、発行国別・地域別にレファレンス・コレクションとして整理・管理を行っています。
- ②図書収蔵委員会を月1回開催し、郵便切手関連資料の購入検討、新規受入図書の項目別クロス・インデックス作り及び収蔵図書の件名統一を続けています。
- ③郵趣文献類については、26名の方から3,426冊(単行本97冊、雑誌3,329冊)が寄贈されました。(公財)日本郵趣協会(以下(公財)略)及び(株)日本郵趣出版発行の全刊行物、並びに郵趣団体発行の支部報や雑誌の寄贈も受けています。
- ④世界の歴史に残るパンデミックな出来事の記録として、コロナウイルス(COVID-19)を題材とした郵便切手類を収集・保存しています。

(2) 企画展示・特別展示の開催

展覧施設「切手の博物館」において、以下の展覧会を開催しました。

① 企画展示

1階展示室で、3ヵ月ごとにテーマを替えて行いました。展示内容及び広報については、企画展示委員会において協議しています。

会期	展覧会名	開館日数	観覧者数(名)
4月3日(水)～6月30日(日)	再録!切手顔面研究所	77	2,776
7月3日(水)～9月29日(日)	馬	77	3,250
10月2日(水)～12月28日(土)	よりどりスポーツ	76	2,277
1月8日(水)～3月30日(日)	あれも地図・これも地図	71	2,696
合計		301	10,999

※「再録！切手顔面研究所」展会期中に、不発行切手「ヒトラー仮面を持つ骸骨」を期間限定展示。（4月26日～5月19日）

②特別展示

○3階展示室で、有料展を次の通り開催しました。

会 期	展 覧 会 名	開館日数	観覧者数(名)
7月20日(土)～8月18日(日)	きて★みて★きって2024	26	1,059
12月7日(土)～12月25日(水)	切手の博物館のクリスマス	16	742
合 計		42	1,801

○3階展示室で、無料展を次の通り開催しました。

9月7日(土)～9月15日(日)…第21回切手はり絵コンテスト作品展

※以下の期日に豊島郵便局が臨時出張所を開設、小型印の押印サービスを実施しました。

5月7日(火)…母の日のおたより2024

5月18日(土)…国際博物館の日

7月23日(火)…ふみの日

12月10日(火)・20日(金)・25日(水)…切手の博物館のクリスマス

2025年2月14日(金)…切手の博物館でバレンタイン

(3) 蔵書の公開

「切手の博物館」図書閲覧室では、蔵書を開架図書と閉架図書に区分し、一般の利用に供しています。閉架図書の利用は61名、188冊でした。

(4) 入館料の特典

「切手の博物館」の入館料に以下の特典を設けました。

- ①毎月23日・ふみの日（9月、12月は休館日に当たるため24日(火)）の入館料無料。
- ②厚生労働省が推進する「児童福祉週間」（5月1日(水)～5月5日(日)）において、小中学生入館料無料。（小中学生の入館者数22名）
- ③「国際博物館の日」（5月18日(土)）の入館料無料。（入館者数500名）
- ④東京都「家族ふれあいの日」に協力し、毎日曜日、子ども連れの場合は小中学生入館料無料。
- ⑤日本博物館協会・国際博物館会議等、他機関の会員証の提示で入館料無料または減免。

2. 展覧施設「切手の博物館」の運営管理

(1) 来館者サービス

「切手の博物館」の来館者の満足度を高めるために、以下のサービスを提供しました。

- ①館内を余すところなく楽しんでもらうための「切手の博物館・攻略ガイド」をホームページに掲載。
- ②1階のパソコン・コーナーで、企画展示のテーマに合わせて全国の風景印を紹介するほか、切手の博物館のホームページの閲覧サービスを提供。
- ③展示の観覧を助けるルーペ及びハンドライトの貸出し。（貸出人数214名／198名）
- ④図書閲覧室では、国内外の新刊本・話題本などを紹介すると同時に、一部の書籍を販売。また、コピーサービスを提供。（コピー利用人数108名）

- ⑤「今月の一冊」と題したお勧め図書（閉架図書を含む）の無料閲覧サービスの実施。（毎月更新）
- ⑥すべての企画展示で、ホームページにプレゼント・クーポンを付与。（交換人数714名）
- ⑦来館のたびにスタンプを押し、一定の数になるとプレゼントと交換できる「ウェルカム・カード」を発行。（プレゼントとの交換人数83名）
- ⑧小中学生向けに、展示を見て答える「切手クイズ」を実施。（参加者827名）
- ⑨切手の博物館のイベント案内や新切手の発行案内などを掲載した情報チラシ「MAYっこ」を、毎月1回、ふみの日(23日)に発行。
- ⑩1・2階の入館を対象とした「年間パスポート」を発行。（期末登録者数26名）
- ⑪「自画像切手ポストカード」作成代金を70歳以上の来館者へキャッシュバック。（利用人数89名）
- ⑫英文パンフレットの配布。
- ⑬公衆無線LANサービス「フリーWi-Fi」の提供。

(2) 記念品の頒布

「切手の博物館」の来館記念品として、日本及び世界各国の郵便切手類並びにスーベニアグッズを販売しています。

(3) 市民参画

- ①切手の博物館メンバー「MAY(メイ)」の会員を引き続き募集し、会員にはメンバーニュース「MAY」及び「受入図書リスト」を配布しました。期末の会員数は65名で、内訳はM(メジャー)メンバー41名、A(アシスト)メンバー23名、Y(ヤング)メンバー1名です。
- ②切手はり絵(切手の博物館内・出張)及び切手たんけん隊の補助役として、登録ボランティア制度を設けています。（期末登録者数3名）
- ③切手はり絵に使用する切手の区分には、ボランティア延べ80名の協力を得ました。

3. 普及啓発事業

(1) 施設内における活動

郵便切手文化に触れる楽しみを広げ、その社会的プロセスを通じてSDGs（持続可能な開発目標）の考え方を理解してもらうため、「切手の博物館」館内で以下の活動を実施しました。（カッコ内はSDGs目標）

- ①各種のワークショップ及び体験イベントを開催（目標4・12）
 - 体験！切手はり絵…毎月第3日曜日、参加者416名
 - ちょっとだけ体験！切手はり絵…平日(火曜～金曜)、参加者39名
 - 切手たんけん隊…「児童福祉週間」（5月1日(水)～5月5日(日))イベント、8月土曜日(5回)、参加者5名/23名
 - 切手でデザイン！カード&しおり作り…4月28日(日)、6月23日(日)、11月3日(日・祝)、参加者134名
- ②日本郵便(株)の切手デザイナーとの連携による手紙振興プロジェクトの実施（目標4・11・17）
 - 切手デザイナー貝淵純子氏
 - ・特別展示「切手の博物館のクリスマス」にて「冬のグリーティング」切手(2024年11月発行)の制作過程資料の展示
 - ・「切手の博物館のクリスマス」の小型印(3種)の原図及びオリジナルポストカード(1種)の原

図提供

- ・スペシャルトーク&サイン会…12月22日(日)、参加者30名
- 切手デザイナー玉木明氏…“切手デザイナーが選ぶ切手”のカレンダーへの協力
- 2025年用年賀はがきの拡大図版と解説を1階エントランス壁面にてパネル展示
- ③国際博物館の日(5月18日(土))記念事業として学芸員によるギャラリートークを開催(目標4)
…参加者30名
- ④図書館記念日(4月30日(火))、国際博物館の日(5月18日(土))、及び全国切手展 JAPEX2024 期間中(11月1日～3日)の閉架図書利用料無料(目標4・11)…利用者5名
- ⑤日本郵趣協会・研究発表会「切手フェスタ2024」(5月3日～5日)に切手はり絵作品を貸出し(目標4・11)

(2) 社会に向けての活動

以下の活動を通じて、広く社会一般に郵便切手文化についての知識を広げ、興味を育む活動を行っています。

- ①豊島区の子どもスキップ(放課後児童施設)において出張切手はり絵を4回開催(参加者74名)、下落合図書館(新宿区)において一般向け出張切手はり絵を開催(参加者16名)。また、切手はり絵ワークショップの材料を4館に提供。
- ②日本女子大付属豊明小学校(文京区)において郵便に関する出前授業を実施。(2年生、110名)
- ③日本郵趣協会が行っている「切手趣味週間 春の全国ミニ切手展」キャンペーンに協力し、近郊の博物館2カ所でミニ切手展を開催。
- ④郵便切手文化に関する出版物として、「びっくり切手大集合! 変わり種切手大図鑑」を7月20日に、「教養としてのビジュアル切手百科事典」を2月10日に刊行。
- ⑤日本郵趣協会と協働して諸活動を推進。
 - 社会貢献事業「手紙を書こう! プロジェクト2024」。
 - 「ゆうびんde自由研究・作品コンテスト2024」のコンクール審査に審査員1名を派遣。
 - 第59回全国切手展 JAPEX2024 の切手デザイナートーク「普通切手のできるまで」で企画・MCを担当。
- ⑥東京国立博物館主催の親子向けイベント「トーハクキッズデー」において出張切手はり絵を開催。(参加者16名)

(3) ホームページ及び公式SNSを利用した活動

ホームページ及びSNS(Instagram、X(旧Twitter)、YouTube、フェイスブック)を利用した発信に力を入れました。

- ①学芸員による企画展示の解説を毎月ふみの日(23日、9月・12月は24日)に配信。
- ②全国244のミュージアムが参加する『おうちミュージアム』(オンラインによる学習プログラム)に賛同し、切手を使って家で楽しく遊んだり学んだりできるコンテンツを提供。
- ③オンライン切手講座をYouTubeで配信。

(4) 広報活動

- ①切手の博物館で開催の展覧会及び「体験! 切手はり絵」をPRするチラシ等を作成し、近隣の施設に配布しました。

- ②切手の博物館の企画展示、特別展示、イベントなどの情報を、ホームページ、SNS、チラシミュージアム（美術館・博物館等のチラシアプリ）を通じて発信しました。また、これらの情報をマスコミ各社（新聞・ラジオ・テレビ・出版社・Webサイトなど）及び関連施設（大学、団体、店舗など）へ広報しました。
- ③切手などに関するマスコミの照会・取材、また単行本や学習教材の挿絵用に切手を使いたいという申込みに、積極的に応じています。
- ④郵便切手文化の専門誌において切手の博物館の企画展示、特別展示などを案内するなど、広報に努めました。
- ⑤切手の博物館だより「MAYっこ」を1カ月に1回、豊島区の子どもスキップなどに送り、地域への広報に努めています。
- ⑥切手の博物館の入館料割引引換券の目白駅常置や、(公財)日本野鳥の会などの団体の会員特典に協力するとともに、「さくら日本切手カタログ」に入館無料クーポンを付けるなど、来館者促進を企図しました。

(5) 他館との交流

豊島区内の文化施設を巡るスタンプラリー「としまミュージアムスタンプラリー」（8～12月）に参加、切手の博物館をPRすることにつながりました。

4. 学術調査研究事業

(1) 調査研究

- ①紀要編集委員会の査読を経て、研究者の調査研究成果を取りまとめた「切手の博物館研究紀要」（第21号）を発行しました。また、フィラテリック・スタディ1として「現代のトピカル郵趣・テーマティック郵趣」を9月に発行しました。
- ②日本博物館協会主催の全国博物館長会議(オンライン開催)、博物館シンポジウム「何のための博物館学?」、日本博物館協会研究協議会主催の「収蔵庫問題について考える」(オンライン開催)に出席し、学術調査研究事業の質的向上に努めています。
- ③日本博物館協会主催の「新登録制度の審査・登録に係る意見交換会」及び「新登録制度相談会」(共にオンライン開催)に出席し、再登録に向けた情報収集を行いました。
- ④科学研究費補助金の指定研究機関として登録しています。

(2) 鑑定

鑑定委員会のもとで日本郵便切手類の真贋の鑑定を行い、49点の鑑定書を発行しました。

5. 顕彰事業

「第21回切手はり絵コンテスト」(ジュニアの部・一般の部)を開催しました。「きて★みて★きって2024」開催期間中に作品募集を行い、全応募作品288点を切手の博物館において展示するとともに、優秀作品には賞状並びに記念品を授与しました。

6. 文化支援・助成事業

(1) 文化支援

- ①郵便切手文化活動の支援の場として「切手バザール」(9回)、「0tegamiフリマ」(協力：日本郵趣

協会、4回)を開催しました。Otegamiフリマ では各回で豊島郵便局による小型印の押印サービスを実施しました。

②日本郵趣協会主催の学術調査研究発表会などに3階展示室を提供(19回)し、公益活動を支援しました。

(2) 助成

①郵便切手に関する出版物に対して、費用の一部を助成しました。(5件)

②博物館の社会貢献活動の一つとして、1階エントランスに専用ボックスを置いて紙付き古切手の寄付を募り、集まった古切手は公益法人に寄贈する活動を続けています。

Ⅱ. その他事業

鑑賞・収集の対象となる日本及び世界各国の郵便切手類を、ミュージアム・ショップにて受託販売しています。

附属明細書(事業報告関係)

補足すべき重要な事項はないため、附属明細書は省略する。